

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市鶴見区今津北3丁目3番8号	氏名	株式会社 ワイヤーク 代表取締役 橋本 忠
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		当社は、鶴見区に本社及び大阪工場第1製造部、西淀川区に第2製造部、石川県加賀市に加賀工場の3製造所体制で事業を営んでいる。 主に、線材を伸線加工して鉄線を販売するほか、亜鉛めっき線及び有刺鉄線などに加工して販売している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	7,291 t-CO <sub>2</sub>	6,982 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,631 t-CO <sub>2</sub>	7,352 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-0.2 %	-6.8 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-0.5 %	-7.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

原単位が目標年度に対して削減率-6.8%、平準化補正ベースで-7.5%と大きく悪化してしまった。 基準年度と比べ生産量が減少(約10%)したことによる。また、生産量全体としては減少したものの、エネルギー使用率の高い針金製品の生産量は増加したこと。めっき処理の品質向上のために前処理として温水洗浄を追加したため、熱源として蒸気使用量が増加したこと。めっき設備の老朽化により燃料原単位が悪化した(同設備で生産している製品については他設備での生産に移し、撤去する予定)ことによる。
H29年2月にガスコージェネレーション設備の運転を開始したこと、老朽化しためっき設備については平成29年度にエネルギー効率の良い設備へのリプレースを予定していることから、改善が図れると考えている。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

エネルギー管理統括者、月初に工場長以下製造部責任者全員で「全体会議」を開催し前月の生産状況、エネルギー使用量や原単位などを報告、原単位が悪化の場合は対策の検討・実施を行っています。  
また生産工程を組む際、できるかぎり生産量を集約して集中稼動を行うなどの対策を行っています。

第1製造部・第2製造部ともに7月～9月の昼休時間 12時～13時を13時～14時に1時間ずらす「ピーク時間調整」を実施しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1112) エネルギー使用量データ管理	統括エネルギー管理者及びエネルギー管理企画推進者による全体会議を運用しエネルギー使用量データ管理 デマンド監視装置の活用 【実施中】	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1113) 伸線工場及びめっき工場の効率的運用	第1製造部 伸線工場及びめっき工場 1) 生産を集約して集中稼動 2) 生産指示待ちの伸線機停止 3) 夏季のピーク時間、休日調整 【実施中】	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場 第2製造部	コード (1113) 伸線工場及の効率的運用	第2製造部 伸線工場 1) 生産を集約して集中稼動 2) 夜間に操業をシフト 3) 夏季のピーク時間、休日調整 【実施中】	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1218) 天井照明のLED化	2号めっき工場 サプライ部天井照明のLED化 400W水銀灯 12灯をLED化 (期待効果: 11t-CO2/年削減) 【H28年度実施済み】	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1218) 天井照明のLED化	2号めっき工場 めっき及び巻取ヤード天井照明LED化 400W水銀灯 36灯をLED化 (期待効果: 33t-CO2/年削減) 【H28年度実施済み】	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1218) 天井照明のLED化	太物伸線工場・太物製品倉庫 天井照明のLED化 400W水銀灯 25灯をLED化 (期待効果: 24t-CO2/年削減) 【H28年度実施済み】	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (5221) 変圧器の更新	第四変電所動力変圧器の更新 500KVA x 3台→アモルファス750KVAx1台 とし負荷損・無負荷損を低減 (期待効果: 16t-CO2/年削減) 【H27年度実施済み】	27 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (5221) 変圧器の更新	第三変電所動力変圧器の更新 300KVA x 1台→アモルファス 300KVAx1台 とし負荷損・無負荷損を低減 (期待効果: 5t-CO2/年削減) 【H28年度実施済み】	28 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (5221) 変圧器の更新	第二変電所動力変圧器の更新 500KVA x 1台→アモルファス 300KVAx1台 とし負荷損・無負荷損を低減 (期待効果: 10t-CO2/年削減) 【H29年度実施予定】	29 年度
	レ	人工排熱				0 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1121) 熱効率の向上	S T C 炉 ラジアントチューブ ラジアントチューブに高放射材を挿入し熱効率向上を図る。(全16本を順次実施) (期待効果: 46t-CO2/年削減) 【費用対効果なく中止】	28 年度
	レ	人工排熱				30 年度
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部	コード (1222) 太陽光発電設備導入	本社事務所の太陽光発電設備設置 デマンド抑制、電力使用量削減 (期待効果: 21t-CO2/年削減) 【費用対効果なく中止】	28 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部 第2製造部	コード (2123)  エコドライブ の推進	1. 営業先によつて車と電車を使い分ける 2. 待ち時間のアイドルストップ 3. 交通ルール、経済速度の遵守 【実施中】	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪工場 第1製造部 第2製造部	コード (2112)  燃料使用量管 理	営業車ごとの走行距離及び燃料使用量管 理 【実施中】	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

- 1) エコドライブの推進。
- 2) 遠方はJRなど公共交通機関を使用。

H29年2月、普通車と軽自動車計2台をハイブリッド車とエンジン発電機付き電気自動車に買い替えを実施した。

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市西区江戸堀1-3-20	氏名	株式会社ワキタ 代表取締役社長 脇田貞二
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		建設業者を主たる貸出先とする、ダンプカー、クレーン付きトラックなどのレンタカーを事業とする		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	2,446 t-CO <sub>2</sub>	2,474 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,446 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.1 %	10.3 %	-1.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0 %	0 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

レンタカーの低燃費車種への入替は進んだものの、土木建築工事量の増加に対応する為に総台数を増やした事に因り、逆に排出量を増加させる結果となった。
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

車両の入れ替えの際には、低燃費車の導入と低年式車の廃棄を効果的に実施できるよう、営業推進部が主となって会議で協議する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG 排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG 排出	本社	コード (2121)  低燃費車の導入	車両更新時に可能な限り低燃費車を導入する	0 年度 ～ 0 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	愛知県名古屋千種区内山3-23-5	氏名	ワシントンホテル株式会社 代表取締役社長 内田 和男
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル業・飲食店業・物品販売業・ホテル経営コンサルティング 大阪府内に3店舗出店しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 26 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,074 t-CO <sub>2</sub>	3,075 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,502 t-CO <sub>2</sub>	3,372 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	7.8 %	39.4 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.7 %	38.8 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

エネルギー使用関連設備の稼働方法(時間・温度管理・運転方法など)の実施を徹底した。
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当ホテルチェーンでは、「地球のためにできること」を全社のスローガンとして、お客様のご理解とご協力をいただきながら、環境保全活動を実践し、省資源・省エネルギー、リサイクル、ごみの減量などをテーマとした環境保全活動に取り組んでおります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 空調運転・照明設備の適正管理	飲食店舗の使用していない小部屋照明、空調運転の休止。従業員スペース使用していない部屋の照明、空調運転の休止。バックスペースの照明の間引きによる交	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	R & B ホテル梅田東	コード (1113) 冷凍・冷蔵庫の適正運転	冷凍・冷蔵庫運用管理手順書による機器の適正運転を行い効率化を図る。収納は7割程度とし冷気の周りを良くする。・パッキンの劣化は即交換する。季節別の温度管理による(冷蔵庫夏季は5℃	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	R & B ホテル梅田東	コード (1199) 空調室内機のフィルター清掃	空調室内機のフィルター清掃を実施し機器の効率化を図る。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	新大阪ワシントンホテルプラザ	コード (1113) 冷温水発生器の適正運転	冷却水温度設定の日常管理。日々の外気温に応じて適正温度に設定し、エネルギー使用量を抑える。	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	新大阪ワシントンホテルプラザ	コード (1199) 空調運転・照明設備の適正管理	宴会場を使用していない場合の照明、空調運転の休止。従業員スペース使用していない部屋の照明、空調運転の休止。バックスペースの照明の間引きによる交	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度
		人工排熱				～
						年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都小平市小川東町5丁目7番10号	氏名	わらべや日洋株式会社 代表取締役 大友 啓行
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		コンビニエンスストア向け、おにぎり・弁当・寿司、麺、チルド弁当、すしの製造を行っており、大阪府エリアで2工場運営しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 27 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	7,638 t-CO <sub>2</sub>	8,763 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,078 t-CO <sub>2</sub>	9,300 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (29 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	8.6 %	1.5 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	7.9 %	1.2 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(売上金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー由来100%であり、省エネ実施による効果が出ている。</li> <li>・継続出来る体制が浸透してきている。</li> </ul>	
--	--



◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室等の常時使用しない部屋について、使用後速やかに冷暖房機器の停止を実施。</li> <li>・夏期冷房設定温度 摂氏28度、冬季暖房設定温度 摂氏23度維持による室内温度適正化を実施。</li> </ul>
---

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全工場	コード (1114) 保守・点検	空調室内機の洗浄を実施し、負荷軽減	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	全工場	コード (1125) 室外機散水	空調室外気に散実施し、負荷軽減	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	全工場	コード (1113) 温度管理	各部屋、庫内温度管理の設定温度の徹底	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	全工場	コード (1113) 不要時の消灯 の徹底	各担当者による見回りにて消灯の徹底	27 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	全工場	コード (1114) 保守・点検	終業点検による、機械停止確認	21 年度 ～ 26 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	全工場	コード (1218) 機器更新	機器更新時にHFタイプ、LED器具に 交換	21 年度 ～ 26 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	全工場	コード (1113) 生産工程の見 直し	製造ピーク時間の変更、スタート時機器 運転の時間差	23 年度 ～ 26 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

(3) その他の抑制対策
